あおもり民医連

2015年11月19日発行
【８面オールカラー】発行部数2,658部
第260号

発行元／青森県民主医療機関連合会
所在地／〒030-0822 青森市中央三丁目10番2号
TEL. 017（723）4076　FAX. 017（773）5326
U R L http://aomin.jp/
e-mail info@aomin.jp

憲法いかし、いのちまもる10.22国民集会には精神科医・香山リカさんもかけつけました

憲法の復権をめざして

2015年度 全日本民医連社保委員長会議から
―今こそ人権のアンテナを高くかかげよう―

九月八～九日の二日間、東京駅日本橋カンファレンスセンターにおいて全日本民医連社保委員長会議が開催され全国から百三十一名が参加しました。

このとき国会はまさに安保関連法制審議の真最中というタイミング。田村社保委員長による問題提起はじめ、長友薫輝氏（三重短期大学）や稲葉剛氏（認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい理事）の学習講演があり、グループワークでは「全国の教訓を持ち帰ろう」と熱心な討議が行われました。私たちの今後の社会保障「闘争」「運動」「活動」をすすめるうえでの大事な視点や必要な連携を深め合いました。

「こどもの貧困」の取組みに関する和田浩氏（健和会病院小児科医）の指定報告では、必要な治療を中断している親子に着目し、親御さんに「経済的理由を抱えているのでは？」と勇気を出し尋ねたところ「実は…窓口負担が重くて…」と、堰を切ったようにご家庭の経済苦について話し始めたそうです。そのことが発端となり、償還払いとなっている飯田市（長野県）の子どもの医療費窓口負担の無料化を求め、小児科医会を動かし、議会に申請する取組みへと発展していることが報告されました。

日常の診療・看護・介護等での会話から一歩踏み込んで、地域の実態をつかみ、皆で学習しながら運動を広げ、要求実現に結びつける取組みの重要性を再認識しました。

立憲主義と民主主義を蹂躙した安倍政権は、軍事大国化（＝平和憲法の破壊）と、公的社会保障制度の破壊（＝生存権の後退）を同時並行ですすめており、これは、国民の要求と大きく乖離しています。いまこそ私たちは人権のアンテナをより一層高くかかげ、日本国憲法に記された「基本的人権の尊重」と「平和主義」を、改めて私たち国民のものとするため奮闘していきましょう。

（県連社保委員会事務局長／伊藤雄司）

協立病院の病棟に飾られた平和憲法を守ろうデコレーション

県連青年委員会
ピースサイクル あおもり

９月６日（日）、青年委員会主催による『ピースサイクルあおもり』を開催しました。ピースメイト委員・ジャンボリー委員が中心となり健生病院（弘前）から協立クリニック（青森）まで約40キロを平和アピールをしながら、自転車を漕ぎました。

参加者は８名でしたが、なんと、今回は小学２年生のお子さんも参加していただき、最後まで走破しました。通りすがりの自動車からたくさんの人たちがアピールを見ていったと実感しています。

はじめは「この人たちは何をしているのだろう？」と思ったことでしょう。しかし、そこから興味をもっていただき、そこから私たちがなぜこのような活動を行っているのか理解して見ていただければと思います。

今後も若い職員の皆さんによる様々な取り組みが活発になるように、青年委員会は頑張っていきます!!　　（青森民医連事務局／関　和恵）

青年平和学習・三沢フィールドワーク2015

9/12～13に県連ピースメイト小委員会主催の「青年平和学習三沢フィールドワーク2015」を行い、①次代を担う青年の育成と青年平和活動の活性化のための平和交流②沖縄に次ぐ軍事県である青森県の実態を体験・学習する③三沢を知ることで日米安保や憲法、平和について考える大きな一歩とする、を目的とし、22名が参加しました。

一日目の三沢米軍基地周辺～集団移転地域のフィールドワークの最中、何度も頭上を通り過ぎる戦闘機の爆音に、日常的にその騒音を耳にする住民の方の気持ちを改めて考えさせられました。学習は青森県平和委員会代表委員の中屋敷泰一氏による「戦争立法・集団的自衛権と三沢基地強化の実態」の講演をしていただき、情勢・地域の実情について学習を深めました。宿泊はみんなでコテージに泊まり、夕食交流会を通し年齢や職種を超えた交流をすることができました。

翌日は朝から三沢航空祭に参加し基地内を見学し、たくさんの人だかりで一大観光イベント化しているのを目の当たりにしました。今年はオスプレイも展示されており、基地内の施設や外とのギャップを感じました。

今回で三回目の「三沢フィールドワーク」。参加した青年職員も、それまで新聞やニュースで遠い存在だった基地問題などを「自分の目で見て、聞いて、感じる」ことで身近な問題として考えるきっかけとなりました。今回は医学生三名も参加し、民医連で働く青年職員と交流を深めることもできました。

（県連ピースメイト小委員会／伊勢　充）

原発再稼働STOP!

全国交流集会 in 青森

十月十八日（日）リンクステーションホール青森にて全国集会が行われ、北は北海道、南は鹿児島まで十七都道府県から二百四十名が参加しました。

今集会は、十月十五日に九州電力川内原発２号機の再稼働強行という情勢の下での開催となりました。特別報告では、諏訪益一氏（青森県議）からは、六ヶ所再処理工場での落雷事故や、東通原発の事故時の避難計画では七十二時間もかかること。立石雅昭氏（新潟大名誉教授）からは、大間沖合の海底活断層等について、活断層の可能性がある限り原発を立地することは許されないと話され、改めて原発・核燃施設の危険性が訴えられました。

問題提起では、原発問題住民運動全国連絡センター伊藤達也筆頭代表より、福島に寄り添いながら、①福島原発事故の実相・経験・教訓、②原発立地・運転の危険、③再生可能エネルギーへの転換、④原発に依存しない町づくり、以上四つの認識を共有し、「原発・核燃からの撤退」「原発ゼロ」の合意形成を広く国民に呼びかけることが訴えられました。

最後に、あおもり健康企画 笹村明日香さんにより「青森からのアピール」が読み上げられ、参加者全員の拍手で採択しました。

今回、全国集会が原発・核燃施設が集中立地する青森で行われたことを契機とし、「原発ゼロ」に向けて更なる運動を前進させましょう。

（青森県民医連／外崎速人）

医療福祉生協の『地域包括ケア』を学ぶ

津軽保健生協学校

9月26日、弘前市中央公民館岩木館にて津軽保健の生協学校が開校され、地域組合員・職員組合員126人が集い、医療福祉生協の地域包括ケアについて講師に医療福祉生協連常務理事の野本靖夫氏を招いて学習を深めました。

団塊の世代が七十五歳を迎える二〇二五年に向けて、従来の公的なサービスから、自助（自分の命は自分で守る）と互助共助（近所などお互いが助け合って生きる）による「地域包括ケア」政策が進められようとしています。

そこで、私たち医療福祉生協が目指す「地域包括ケア」では、①公的サービスの充実もめざすこと。②組合員の自主的な取り組みを基本とすること。③地域連携を大切にすること。④都市部の高齢者問題だけでなく地方の課題にも対応すること。の4点がポイントとし、具体的な取り組みとしては、「地域資源を活用する『つながりマップづくり』、誰もが気軽に話せる相談できる『たまり場づくり』、地域単位での取り組みを行うための『小規模での支部づくり』を行っていきましょう」と提起されました。

私達職員も組合員さんとともに、これからしっかり勉強していきたいと思います。（津軽保健生協組織部／三上直子）

いの健東北セミナー

in 岩手・花巻

10月3日から2日間に渡り岩手県花巻市で開催された「第10回働くものの命と健康を守る東北セミナー」には、東北6県から106名が参加しました。

2014年6月に「過労死等防止対策推進法」が遺族の強い願いと運動で可決成立されたものの、安倍政権は「成長戦略」の名で「残業代ゼロ」「過労死促進」の「新しい労働時間制度」の創設を企て、先の国会では労働者に不安定化・流動化の「生涯派遣」を押し付ける労働者派遣法の改悪を強行しました。また、今年12月から「ストレスチェック制度」が義務化されることも踏まえ、どうたたかっていくのかまたどう対応していくのかを、東北各県の経験共有と助言者による提言を受けて学び議論しました。

佐々木道夫医師（現大船渡市国保越喜来診療所所長）による「被災地住民及び自治体労働者の健康状況について」の記念講演では、津波後の地区住民の健康上の諸問題と身体的精神的健康保持のための課題などについて報告いただきました。また、健生黒石診療所坂戸慶一郎所長による分科会「働き過ぎと健康」をはじめとする5つの分科会を通じて、働きがいのある人間らしい仕事（ディーセント・ワーク）の実現をめざして運動を発展させようと決意を固め合いました。（県連事務局長／宮沢　守）

佐々木道夫医師（大船渡市国保越喜来診療所所長）による講演

健生黒石診療所坂戸所長による分科会講演

「いい介護の日」介護ウェーブ

八戸・弘前・青森のそれぞれの介護事業所に一言シールを配り、アピール文を書いてもらいました。シールを模造紙に貼り付け、道行く人に立ち寄ってみて欲しいと願いました。当日は風が強く、横断幕が何回も破け、ガムテープで補強し続け、一時間のウェーブを終了しました。全体で六十四筆の署名を集めることができました。

ウェーブ後の講演会では、全日本民医連介護福祉士委員会委員・井田智氏による「介護職に期待するもの」～介護職の組織つくり～をテーマにお話していただきました。

認知症高齢者のケアの実践、民医連介護職の組織化の現状や介護保険制度改悪と介護職員に求められるものについてお話いただき、最後には私たち介護現場で働くものの原点ともいえる利用者が求めるケアについて映像を通して教えていただきました。涙が止まりませんでした。

私たちを取り巻く状況はこの日の天気のように厳しいですが、皆さんの情熱で支え合いながら頑張って行きましょう。（県連高齢福祉委員会／副田幸子）

現場の声を集め、介護制度の改善につなげよう！

青森市アウガ前の介護ウェーブに参加してくれた職員の皆さん

集会一日目は長野県阿智村前村長の岡庭一雄氏が「憲法が生きる自治体を目指して～阿智村の実践から」と題して記念講演があり、住民要求を実現するためには、その内容を住民に提案してもらい、それを村長と意見交換で充実していくこと、形ができた後の運営も住民の力を発揮してもらうことを追求し、「地方自治は民主主義の学校」ともいえる取り組みをしてきたことなどが話されました。午後は各分科会での演題発表・ポスターセッションが開催され、青森民医連からは社保委員会が実施した憲法アンケートやその後の戦争法案廃案を求める取り組みをはじめ、各職場での実践を医療・介護、経営、社保、教育、県連結集の側面から報告しました。

二日目は「無差別平等の包括ケアの実践と探求」や「職員育成」などのテーマ別セッションが行われました。

（県連事務局次長／那須　稔）

全日本民医連学運交 in 大阪

第12回全日本民医連学術運動交流集会が10月9日～10日、大阪府立国際会議場を会場に開催され全国から1,300名、青森県連から31名が参加しました。

長野県阿智村前村長・岡庭一雄氏による講演

第17回青森県高齢者大会　高齢期問題をとおし、社会を考える

今年10月31日、リンクステーションホール青森にて「戦後70年 憲法いかし格差のない公正な社会を」スローガンに、毎年恒例の青森県高齢者大会が開催され、県内各地より348名が参加しました。

オープニングセレモニーは高橋哲子一座による津軽民謡で華々しく開会し、記念講演や学習講座、分科会などプログラムを進めました。伊藤千尋氏（ジャーナリスト・元朝日新聞記者）の記念講演「いま平和でしょうか？豊かでしょうか？」では、フロアーの笑いと共感、喝采の声や拍手が止まず、「国民の15%の行動で社会は変わる」との伊藤氏の発言に来場者は深く頷いていました。参加者からは「学んだからには行動しなければ」「また参加したい」など前向きな感想が出されるなど、有意義な大会となりました。

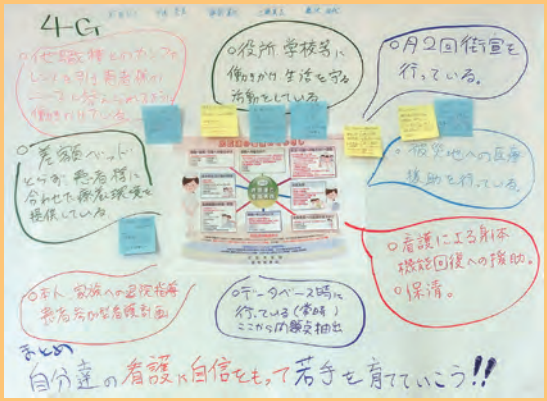
伊藤千尋 氏

聴講の様子

（青森県高齢者運動連絡会事務局長／伊藤雄司）

第6回 青森民医連 看護管理研修

10/16～17の二日間、第6回青森民医連看護管理研修を開催。看護長・主任合わせて24名が受講しました。



看護のものさし概念図をグループワークで作成

一日目は、情勢学習と、星野陽子健和会看護部長による公開講座「今日的に求められる民医連の看護管理のあり方」と「民医連看護のものさし」をテーマに学びました。グループワークでは、日々の業務を「看護のものさし概念図」に照らし合わせて考えていく中で、繁雑な現場においても実践できていることや課題と思われる点等を可視化することができました。情勢をしっかりとらえることの重要性や歴史を再確認することで、民医連看護の原点について深めることができました。

二日目は、「組織運営と管理者の役割」と「人的資源管理」の二つの講義を行いました。情勢や地域のニーズに則して組織運営していくための方法や組織に必要な人材を育成することの重要性について学びを深めました。グループワークでは、日々の管理課題をまとめた個々の事前レポートをもとに、講義で学んだ内容を活用しながら意見交換を行いました。

アンケートでは、民医連看護への確信につながり、継承していくために「看護管理者として情勢認識が重要である」ことや、「日頃の悩みを共有できた」「課題解決の糸口がつかめた」という感想が多く寄せられました。看護管理における多くの学びと法人を超えた交流の機会となり、本研修が明日からの活力につながることを期待しています。

（県連看護介護委員長／加藤あけみ）

研修カリキュラム

	科　目	テーマ	獲　得　目　標	講　師
10/16	①講義	情勢を学び民主的集団医療に生かす	民医連看護を展開していく外部環境について理解できる	青森保健看護部長・野村美恵子
	②講義	今日的に求められる民医連の看護管理のあり方と「民医連看護のものさし」について	民医連看護を展開,継承させていく為の看護管理者の役割を見出すことができる―民医連看護を実践していく為の職場づくり―	健和会看護部長・星野陽子氏（東京）
	③グループワーク発表・まとめ	民医連看護について	自分の言葉で民医連看護を語ることができる	
10/17	④講義	組織運営と管理者の役割	組織の基本的概念や組織運営について理解し、実践に結び付けることができる	津軽保健看護部長・加藤あけみ
	⑤講義	人的資源管理	組織の方針を達成するための人材活用、人材育成について理解し、実践に結び付けることができる	津軽保健総看護長・寺島由美
	⑥グループワーク	課題解決	課題解決方法を見出すことができる	

県連職場管理者＆管理補佐研修

―憲法への理解を深め、仲間との協力を進めよう―

・全日本民医連第３回評議員会方針を深め、次期42回総会への展望～県連会長、大いに語る～
・学びと気づきのある職場づくりと管理者としての変容と憲法

第２講座の長久啓太氏（岡山県労働者学習協会事務局長）による講演

第１講座は、伊藤真弘県連会長を講師に、2018年診療報酬改定を見据えた医療情勢と新自由主義を含めた社会情勢を学びました。「ＷＨＯが示す健康の定義」と「厚労省が示す保健医療2035」は相反する形となっており、基本的人権（健康権）の意義を抑え学習し、運動に繋げていくことは民医連の使命であると感じました。

第２講座は「学びと気づきのある職場づくりと管理者としての変容と憲法」をテーマに、岡山県労働者学習協会事務局長の長久啓太氏を講師に迎えて行いました。なぜ憲法学習が必要なのか、集団である以上問いかけられるのが人権であり、主権者として努力することは、人間的成長、職業的成長にリンクしてくるということで、憲法を職場教育で生かすことのつながりを学習しました。

憲法の理解を深めると共に、仲間（職場・地域・患者様等）と協力できる力の大切さを認識できる研修となりました。（県連教育委員・弘前調剤センター／工藤敏子）

事務職員基礎研修での学び

十月二十三日、県民福祉プラザを会場に二〇一五年度県連事務職員基礎研修を開催し七人が参加しました。

グループワークで目標を発表

高齢者擬似体験

高齢者の身体的感覚や介助の大切さを経験してもらうため、高齢者疑似体験を行いました。体験を通じて、「高齢者への接し方、介助ポイントがわかった」「ポスター作りや環境整備を深く考えることができた」など、よりよい接し方や環境整備のアイデアがあふれていたようです。

先輩職員二人の経験から学ぶ講義では、自分も三年後は、こんなに立派な先輩のようになっているだろうかなど、今後の自分のビジョンを想像しながら聞き入っていました。

また、新たな企画として、基礎的なビジネスマナー講座を企画しました。ベテラン職員を講師に迎えて、電話の受け答えや患者様に接する際の言葉遣いなどを真剣に学んでいました。

今後も、事務職員の養成と、将来を担っていく仲間との交流の場として、研修を企画していきたいと思います。

（県連事務養成委員会／対馬利穂）

民医連 全国青年 JB ジャンボリー in 岡山 へ参加してきました(^O^)／

9/27(日)～9/29(火)

9/27～29の3日間、岡山県真庭市湯原温泉にて「第36回JB期民医連全国青年ジャンボリー」が開催されました。自然に囲まれた空気の心地よい温泉街へ、約700名が集いました。

テーマスローガン：

We are 桃太郎！仲間と出会い、学び、始めよう！
～「晴れの国」岡山でぼっけぇ楽しい鬼退治じゃ!!
温泉つかって仲良うなろーや♨～

獲得目標：

民医連の仲間と日頃の想いを語り合い、共有しよう。
社会問題を学び、自分たちに出来ることを考えて行動しよう。
岡山の文化を体感し、JBを満喫しよう！

全体集合写真(手形アートと共に)

【三日間のジャンボリー】

一日目には基調講演「真庭サミット」があり、JBの先輩四名よりJBとは何か？その魅力について教えていただきました。その後は全六十班に分かれて自己紹介や講演の振り返りをしました。

二日目には八つのコースに分かれて岡山県内のフィールドワークを通じ、岡山における社会問題を学んだり、観光を楽しみました。夜には大交流会が行われ、「格付けゲーム」や「ピーチレース」で楽しみながら交流を深めました。岡山の「うらじゃ踊り」も参加者一体となって体験しました。

三日目には班交流で別れを惜しみながら、感想交流と「JB活動を活発にしていくために」どうすればよいか話し合いました。閉会式では、前日に参加者で押していた手形アートが張り合わされて披露され、九の日行動として平和への願いを共有しました。「また会おう！」と解散し、各県へ帰りました。

【全国JB実行委員として】

私は今回、青森県から実行委員として参加し、開催約一年前から他の約六十名の委員とともに企画を練って準備をしてきました。全国のJB実行委員は初めての経験で、県や地協と比べてその規模の大きさにまず驚きました。各県から集まった委員はみんなそれぞれ個性があり、時には衝突もしながら、当日の開催成功に向けて議論を重ねていきました。JB活動の意味する「青年職員自身が主体となって、交流し仲間づくりを広げながら共に学び、民医連職員として成長をはかる」ことを、実感することができました。

今回の全国JBは「JBについて知り、フィールドワークや班交流・大交流会で体感し、それを各自持ち帰って伝え広げる」ことをテーマに構成されていましたが、参加者みなそれぞれの想いを持つことができたと思います。はじめは緊張しぎこちなかった雰囲気も徐々に温まっていくのが見ていてわかり、一人ひとりが主役となり全国JBを成功に終えることができました。青年職員同士が上も下もなく、一緒に交流をしたり、学習をして意見を言い合い共に考える。普段働く中では得られない経験ができたと思います。今回の三日間がJB活動の画期になり、今後各県において発展していくことを願います。

（あおもり協立病院・青年ジャンボリー小委員会委員長／菊池琴美）

青森から参加したジャンボラー一同

全国JB実行委員の菊池琴美さん(あおもり協立病院)

青森からの参加者でアフタージャンボリー開催♪♪♪

青森のジャンボリーを元気に盛り上げていこう！

10/24、青年JB小委員会メンバーと全国JB参加者とで、交流しながら振り返りを行いました。

JB委員会のシェフの作ったつけ麺をおいしくいただきながら、他の班の話を聞いたり、同じ青森県の青年職員同士、今後のJB活動について考えました。おいしい、楽しい時間でした♪

今回は全国JB参加にあたってたくさんのカンパをいただき、ありがとうございました。今後も青年職員の交流・成長の機会を作るため、ご協力お願いいたします。

（あおもり協立病院・青年ジャンボリー小委員会委員長／菊池琴美）

保健・医療生協祭り

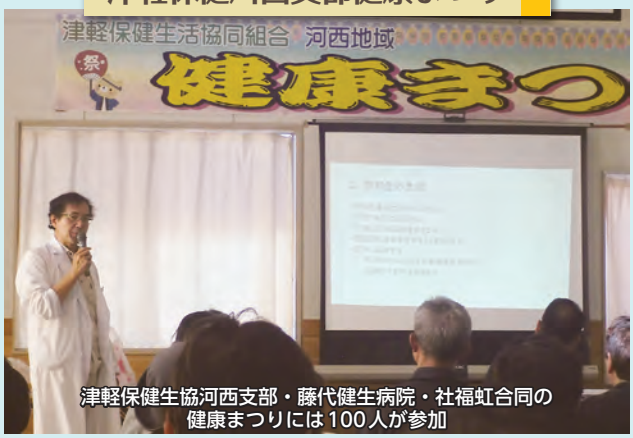
2015年青森保健健康祭り

協立病院見学ツアーは大好評

晴天に恵まれた青森保健健康まつり会場

福島支援チャリティーバザーを行いました

津軽保健川西支部健康まつり



津軽保健生協河西支部・藤代健生病院・社福虹合同の
健康まつりには100人が参加

八戸健康まつり

行列の出来る健康チェックコーナー

県連事務局人事往来

名字も新たに研修担当事務として出戻ってきました。
情勢も厳しく、奨学生・医師確保、新専門医制度…課題は山積みではありますが、民医連医療を担う若手医師の育成を目標に闘っていきます!!
よろしくお願いいたします。

入職以来7年4ヶ月、慣れ親しんだ医学生担当を離れ、健生病院の医局事務となりました。医師のスケジュール調整を通して医師不足と医師労働の過密さを肌で感じる毎日ですが、そんな医師団のQOLを左右する医局棟のレイアウト微修正が目下の課題です。

新任 竹谷（たけや） 雅美（まさみ）
（健生病院医局医学生課
⇒健生病院研修医室）

帰任 篠原（しのはら） 奈緒（なお）
（弘前事務所（医学対）
⇒健生病院医局医学生課）

11月 第19回理事会報告

>> 情勢学習　第41期民医連病院
　院長・事務長・総看護師長・研修交流集会問題提起
>> 決済承認事項
>> 会務報告/各委員会・医師委員会報告
>> 協議事項
　①県連中長期計画について
　②健生病院新築移転の到達について

主な 今後のSCHEDULE

11/20（金）県連社保大学習会
12/3（木）理事会
12/5（土）医療安全推進者研修会
12/25（金）-26（土）年末なんでも相談会

中部クリニック　2015年日総研接遇大賞受賞

「日総研接遇大賞」のHPを参照　http://www.nissoken.com/setsugu/index.html

祝
2015年 日総研 接遇大賞
第1回 受賞者発表
12の病院・介護施設・グループが受賞されました。

中部クリニックで「日総研」の接遇大賞を受賞しました。
「スタッフと患者の距離が近く、カウンターの中からではなく患者の近くまできて話をしている姿勢」や「職員全員が患者に対して気配り・目配りしている」点を評価していただきました。こんなに立派な大賞をいただきとてもうれしく思います。今後も精進してまいります。
（中部クリニック／野宮ふみ子）

♥name びぃちゃん（マルックス・♀）
♥age 1歳

♥name ふうちゃん（ミニチュアダックスフント・♀）
♥age 3歳

♥name リックくん（マルチーズ・♂）
♥age 6歳

♥name 権助くん（柴ミックス・♂）
♥age 16歳

うちのメゴっこ vol.30

「伊藤家のワンコたち」

権助ちゃんはもう目が見えず、耳も聞こえません。散歩は盲導人付で自宅前を少し…。最後までお世話するからね。

小型犬の3匹はこう見えて親子です。パパのリックは気高い孤高の人（犬）。ママのふうちゃんはメチャメチャ元気、庶民派、ボール遊びが大好き。付き合うこっちが疲れます。ベージュのびぃちゃんは「びびりのびぃちゃん」。些細な音におどろいてはソファーの下へ。階段は昇れるけど降りられません。結局抱っこされて降りる甘えん坊さん。（藤代健生病院／伊藤礼子）

★★★ 私の3つ星 Restaurant

とろけるチャーシューと濃くみそ 「たけ屋」（五所川原市）

2014年4月に以前の場所より少し離れたところに移転しました。週末は、並ばないと席に着くことが出来ません。こんな状態は、10年以上変わらず。看板メニューの「みそ味」は、とろけるチャーシューとスープは豚骨・鶏ガラに白みそを加えた、「濃厚かつマイルドで深い味わい」のラーメンです。新メニューの「しょうがみそ」はこれからの季節に超オススメです。

五所川原市の乾橋（国道101号）をつがる市方面に100m程進み、ローソンの十字路を右折すると左側に「たけ屋」が見えます。（健生五所川原診療所／奥瀬昭彦）

Shop Data
【らぁーめん　たけ屋】ラーメン店
五所川原市小曲字豊里5-2
☎ 0173-34-8018
駐車場→20台
営業時間→☼11:00～20:00
定休日→水曜日

あなたと民医連をつなぐ月刊誌
「いつでも元気」
購読を広めましょう！

（定価380円／毎月1日発行）

青森県民医連　社保大学習会

日　　時：11月20日（金）18:00～20:30（開場17:30）
会　　場：中世の館（青森市浪岡）
テ ー マ：「安倍医療改悪と皆保険体制の解体」
～アベノミクスで医療保障は、そして憲法は？～
講演講師：岡崎祐司氏
（佛教大学教育推進機構長・社会福祉学部教授）

参加申込がまだの方はお早めに！

2015年度 青森県民医連学術運動交流集会

日　　程：2016年3月13日（日）10：00～16：30
場　　所：青森県総合社会教育センター
テーマ：「地域に広げよう・ヘルスプロモーション」

地域や社会とのつながりを広げ、安心して住み続けられるまちづくりのために、
私達の現場・実践から『ヘルスプロモーション』についての理解を深め運動を広げましょう。
全日本民医連学運交に出した演題は全てエントリーになります。
各分野の学会・発表会に発表したものや、県連各委員会・事業所からの積極的に応募をお願いします！